

【News Release】

2022年4月1日

株式会社フジキン

『水から水素を世界最小レベルのエネルギーで生成する』

高効率の水電解装置用電極触媒の実用化のため

新潟大学に共同研究講座を設置

株式会社フジキン(本社所在地:大阪市北区 代表取締役社長:野島新也)は、国立大学法人新潟大学(本部所在地:新潟市西区 学長:牛木辰男)と、大型高効率水電解装置用硫化ニッケル系電極触媒の製造技術と評価技術の確立を目指し、4月1日付で共同研究講座を設置します。

【共同研究講座の背景】

フジキンは2022年4月、万博記念つくば先端事業所内に、つくばR&Dセンターを設立。研究テーマの一つに、カーボンニュートラルを掲げています。また、同年9月には、ベトナムにダナンR&Dセンターが竣工。つくばR&Dセンターでの研究成果を基にして、実用化に向けた研究開発を行う予定です。

新潟大学工学部八木政行教授の研究室では、世界最小レベルのエネルギーで、水から水素を生成する水電解装置用の電極触媒の開発に成功し、実用化研究を進めています。

カーボンニュートラル社会の実現に向けてフジキンは、新潟大学の先進的な研究に着目し、新潟大学内に共同研究講座を設置して、大型高効率水電解装置用硫化ニッケル系電極触媒の実用化を目指すことにしました。

【研究目的及びその内容】

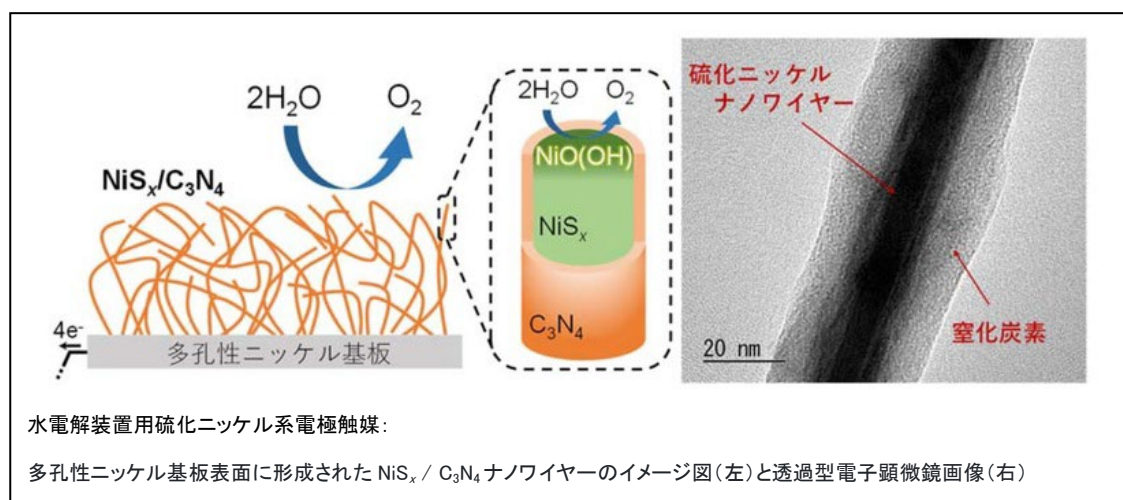
◆研究目的

大型高効率水電解装置用硫化ニッケル系電極触媒製造技術と評価技術の確立。

◆研究内容

30cm角の電極触媒の作製を2024年度末(2025年3月)までに実現すべく当該電極触媒の製造技術の確立と電極の性能確認(耐久性を含む)を実施する。

2025年度以降は、この電極触媒を用いた応用技術開発を行う。



株式会社フジキン

1930年に創業。常に極限に挑戦し、技術の究極を超えることを企業ポリシーとした、特殊バルブ機器類・超精密流体制御システムのメーカーです。半導体製造、水素エネルギー、医薬・食品製造、二次電池製造など様々な分野で製品が活躍しています。2014年「グローバルニッチトップ企業」に、2020年には経済産業省「ゼロエミ・チャレンジ企業」に選出。また製品は、モノづくり日本会議様/日刊工業新聞様主催「”超”モノづくり部品大賞」で18年連続受賞するなど、数々の賞を頂いております。フジキンカープグループとして、日本国内のみならず、アメリカ、アイルランド、ドイツ、韓国、ベトナム、中国、台湾、シンガポールとグローバルに展開しています。

国立大学法人新潟大学

10学部・5研究科・脳研究所・災害復興科学研究所等の研究機関を擁する、本州日本海側において最大規模の総合大学。学生数は約13,000人、教職員数は約3,000人。

高志（こし）の大地に育まれた敬虔質実の伝統と世界に開かれた海港都市の進取の精神に基づいて、自律と創生を理念とし、教育と研究を通じて地域や世界の着実な発展に貢献することを目的とする。

■ 本件についてのお問い合わせ先 ■

株式会社フジキン 総本社 広報部

〒530-0012 大阪府大阪市北区芝田 1-4-8(北阪急ビル)

TEL 06-6372-7141 FAX 06-6375-0697

E-mail fcg-koho@fujikin.co.jp